

学校教育自己診断結果データ分析（令和6年度）

1．自己診断配付数及び回答数

令和6年度回答人数

	教員	生徒※	保護者	合計
配付	66	932	932	1930
回答	62	885	561	1508
%	93.9	95.0	60.2	78.1

2．観点別肯定率（肯定的回答の割合）

	R6年度	R5年度	R4年度	R3年度
【保護者】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校に対する意識に関するもの	94	92	90	91
②学習指導に関するもの	78	78	76	75
③生徒指導、児童・生徒理解に関するもの	84	83	86	84
④進路指導に関するもの	86	89	89	86
⑤いじめに関するもの	88	88	88	89
⑥道徳教育・人権教育に関するもの	90	92	90	91
⑦情報提供に関するもの	85	89	89	86
⑧学校教育への参画に関するもの	84	85	85	62
【生徒】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校に対する意識に関するもの	95	91	89	89
②学習指導に関するもの	93	90	88	89
③生徒指導に関するもの	84	81	82	82
④進路指導に関するもの	92	91	92	90
⑤いじめに関するもの	93	90	89	88
⑥教育相談に関するもの	81	77	74	74
⑦道徳教育・人権教育に関するもの	94	91	90	88
⑧特別活動、学校行事等に関するもの	98	97	95	84
【教員】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校組織に関するもの	83	92	83	86
②教育活動の改善に関するもの	89	85	78	91
③学習指導に関するもの	92	89	92	86
④生徒指導に関するもの	89	92	81	82
⑤進路指導に関するもの	86	92	90	90
⑥いじめに関するもの	85	92	86	91
⑦教育相談に関するもの	81	92	86	72
⑧特別活動、学校行事等に関するもの	94	90	95	83
⑨保護者への情報提供に関するもの	87	89	83	78

3．分析

【学習指導】

○生徒への質問項目「授業を受けることで知識量が増えたり技術が身についたりする」は94%、「ICTを使った授業はわかりやすい」は91%となり、学習指導については、前年より3ポイント増加した。一方で、保護者は「内容がわかりやすく、ためになる授業が多い」と78%が回答しており、生徒と保護者の間に認識の差がある。公開授業を見学した保護者からは肯定的回答を得ていたので、次年度も保護者へ周知のうえ、充実を図りたい。

○生徒への質問項目「1人1台端末を効果的に活用している」は94%が肯定的回答をしており、前年より6ポイント増加した。また、「思考力を重視した問題解決的な学習を行っている」は、生徒が91%、教員が92%と前年からそれぞれ3ポイント増加した。なお、教員への質問項目「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」について、84%の肯定的回答があり、前年から22ポイントも増加していることから今年度の互見授業の成果が見られた。次年度においても、組織的な授業改善の取り組みを充実させ、学校全体の授業力向上に努めていきたい。

【進路指導】

○「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」については、生徒は92%、保護者も「進路について適切な指導を行っている」については86%、教員は「一人ひとりにきめ細かい指導している」についても86%と、いずれも高評価である。進路指導については学校目標の一つである『第一希望の進路の実現』を達成するために、今後も教育産業や大学等外部の教育機関を活用しながら、生徒・保護者・教員が連携し、効果的な進路指導を実施していく。

【教育相談】

○生徒への質問項目「学校には相談することができる先生がいる」が81%となり前年度より4ポイント増加した。担任等を中心に生徒の様子を注意深く観察し、早期の気付き及び支援を実施できている結果である。一方で、教員への質問項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる」は81%と前年度より11ポイント減少していることから、一部の教員に業務が集中することがないように、組織的に教育相談を実施できるよう、教員間の連携を強めていきたい。

【学校運営】

○「東住吉高校で満足した学校生活を送っている」については、生徒が95%、保護者が94%肯定的回答をしており、どちらも前年よりさらに増加している。また、「学校行事に楽しく参加している」の項目では生徒が98%、保護者が95%肯定的回答をしており、どちらも非常にポイントが高い。生徒が将来にわたって必要な力を身に付けるとともに、充実した学校生活を送ることができるよう、組織的な行事運営を継続していく。

○教員への質問項目「学校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている」は83%と、前年より9ポイント減少した。今後も経験年数が長い教員の退職や異動等により、教員体制が変化していくことから、必要に応じて研修等を実施、同僚性を高めていけるよう工夫が必要である。